

使いやすさと安全性 建設現場の事故低減へ努力

納期 相談
企画 力
自信 有
オンリーワン 技術
量産 対応



ロボットを導入し、生産効率化を進める

業務内容 建設業界の安全や 効率化に貢献

建設現場で使う仮設足場を主力とする、建設足場の総合メーカー。大手総合建設業者（ゼネコン）や建設設備関連のレンタル業者向けに建設・土木工事にて使用される足場及び支保工のほか、仮設設備を運搬・搬送する器具などを製造販売している。建設業界に軸足を置いたのは昭和40年から。自動車用ボディーの板金などを手がけていた実績を買われ、当時は珍しかった鉄製仮設足場の製造販売を開始。以来、安全性を高めた製品を開発し続け、建設業界の安全性向上や仕事の効率化に貢献している。松浦宗生社長によれば「誰でも簡単に扱え、かつ安全な製品を独自開発し続けている」とのこと。

強み 安全で簡単、 自社技術を盛り込む

自社開発によって安全性や作業効率を高めた製品を提供できる点が最大の特徴。建設設備のアフターサービスを手がけてきたことから、直接現場の声を聞き、反映した技術や製品が多い。使い勝手と安全性を高めるため、支柱の接続やクサビなど細かい独自技術が製品に多く採用されている。例えば、仮設足場のパイプを接合する金具。縦につないだパイプと横方向のパイプを組み付ける際、他社の製品では地盤が緩かったりすると外れる危険がある。ところが同社の金具はワンタッチで取り付けられ、かつテコの原理を応用して地盤が不安定だったり組み付けたまま足場の上に動かしたりしても外れない。建設現場の事故をなくすことを目指しつつ、熟練技術なしで簡単に扱え、何回でも使える。これが同社の目指す製品開発である。

社製品 次世代足場 ミレニウムが最大の売り

建設現場の高所作業は危険がともなう。とくに、仮設足場の最上部は転落事故と隣り合わせ。そこで仮設足場の最上部に床部を取り付ける際、必ず先に手すり部分ができて「手すり先行足場方式」を採用した次世代足場「ミレニウム」の普及に注力している。ミレニウムの名前は商品化した2000年にちなんだもの。従来工法と違い、別の機材を取り付けず、簡単に強度をとまった手すりを組み付けるバレットや、足場の上に部材などを運べるミニリフトなどもそろえている。ドームなどの建設に向く独自構造の支保工も好評だという。



手すり先行足場の普及を目指す

今後の展望 さらに建設現場の高度化、 安全面に貢献を

やるべきことは多い。まずはミレニウムの普及。平成21年に厚生労働省が先行手すり足場の採用を推進したが、採用が進んだのは公共工事などのみ。普及率は工事全体の約3割にとどまっている。松浦社長は「とにかく遺憾。関係する企業や団体と歩調を合わせ、採用に向けて声を上げていきたい」と意気込む。製品自体の軽量化やコストダウンも進め、一層、建設現場の環境を良くする新製品も開発していきたいという。また、企業としての課題は人づくり。技術者の育成や技能伝承にも注力する。さらに視野に入れているのが海外市場。「海外は人の命を守る技術が少ない。中古品の販売など、何ができるかを探りつつ、将来的な目標として海外展開も考えたい」としている。

COMPANY PROFILE

アサヒ産業株式会社

大阪 25

当社の 歴史

昭和28年の創業当時の名称はアサヒ自動車工作所。自動車メーカーの協力工場として車体ボディーの板金を主体にしていた。その後、東京五輪や大阪万博を契機とする建設ラッシュを控え、木製足場のみだった建設業界にいち早く鋼製足場を投入。大手ゼネコンの協力指定業者となり、建設業界に携わるようになった。以降、建築物の高層化や労働災害の低減に向けた技術を開発している。

人命に係わる仕事として使命と責任を果たし、
経済的なモノづくりに取り組んでいます。

代表取締役 松浦 宗生さん



■主な事業内容

土木建築用足場仮設機材全般の製造販売、それらに関連する金物および安全機材の製造販売

■主な取引先（納入先）

建設機械商社、軽仮設リース業、建築金物メーカー

住所 〒564-0011

吹田市岸部南

2-2-15

TEL / 072-893-2891

FAX / 072-893-2892

創業 / 昭和28年1月

設立 / 昭和40年9月

資本金 / 7,000万円

従業員 / 33名

<http://www.asahi-industry.jp>